



福祉従事者の援助技術 (相談支援援助技術)



社会福祉法人蒼溪会
渡邊 充恵

- はじめに -

今までで一番つらかった
エピソードは？

その時、いつ・誰が・どのよ
うに関わってくれた??
相談にのってくれた??

その方の「聴く」はどんな感じでしたか？

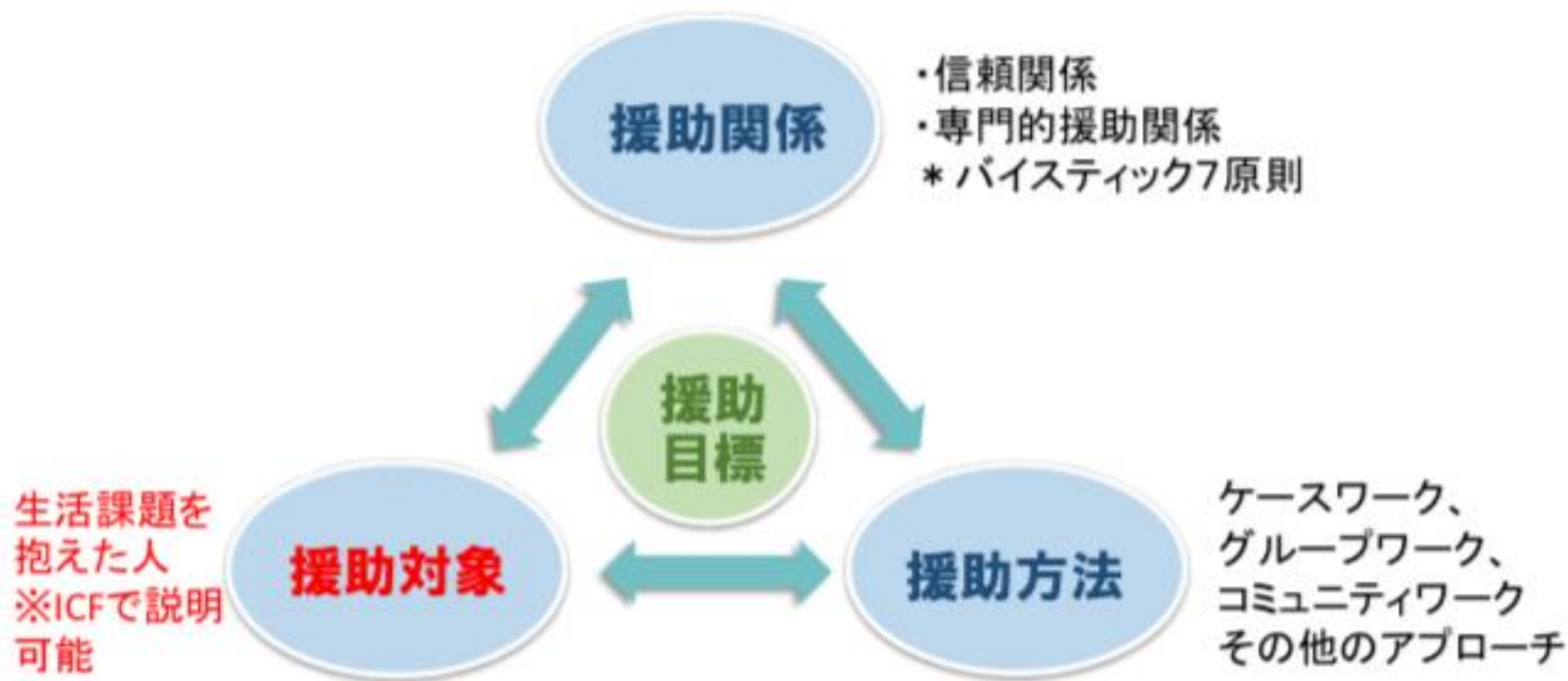


- ・ 聞く 普段の聞く・興味があるのものは耳に ないものは聞き流す
- ・ 訊く 尋問 知りたいことばかりを・・・
- ・ 聴く 相手と向き合い
耳を使い・目を使い
気持ち（心）のありようまで汲み取る
受容と傾聴



	相談	相談援助	相談支援
対象	特になし	障害者等 精神保健福祉士等相談援助 専門職として関わる人たち	障害者等 福祉サービスを利用する方等
根拠法	特になし	精神保健福祉士法等	障害者総合支援法
専門性	特になし	あり 精神保健福祉士等における援助 技術としての専門性	あり 相談支援専門員やサービス管理 責任者としての専門性

相談援助の構成(相談援助の理解のために)



生活課題を抱えた人に対して、専門的援助関係を結び、様々な援助技術を用いて、援助目標に向け

バイステックの7原則



- ①個別化の原則
- ②意図的な感情表現尊重の原則
- ③統制された情緒的関与の原則
- ④受容の原則
- ⑤非審判的態度の原則
- ⑥自己決定尊重の原則
- ⑦秘密保持の原則

バイスティックの7原則を振り返る

最近、利用者の方に相談された場面について思い出してください

問1 その時、利用者の言葉や態度に対して、どう感じましたか？

問2 あなたはどんな風に対応しましたか？

問3 その関わりはバイスティックの7原則のどれに

関係しそうですか？（1つでもOK）

問4 原則に照らし合わせて、「良かった点」

「今後意識したい点」を一言で

バイスティックの7原則は・・・

相談援助・相談支援としての関わりとして、

ソーシャルワークの基本的な姿勢

- ・ 本人中心 ⇒ 本人が主役
- ・ 自分の人生を、自分が主役として生きるための支援
- ・ 本人が選択し、決定する支援を実施すること

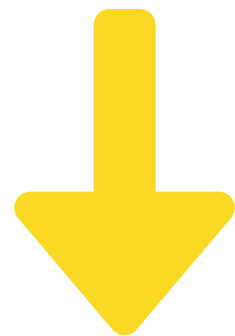
本人のニーズ

エンパワメント・ストレングス

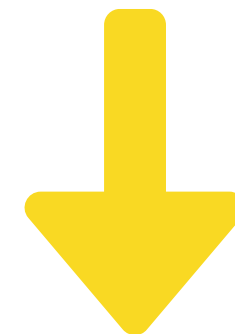
⇕ バランス良く！！

選べる（ニーズにつながる）情報量

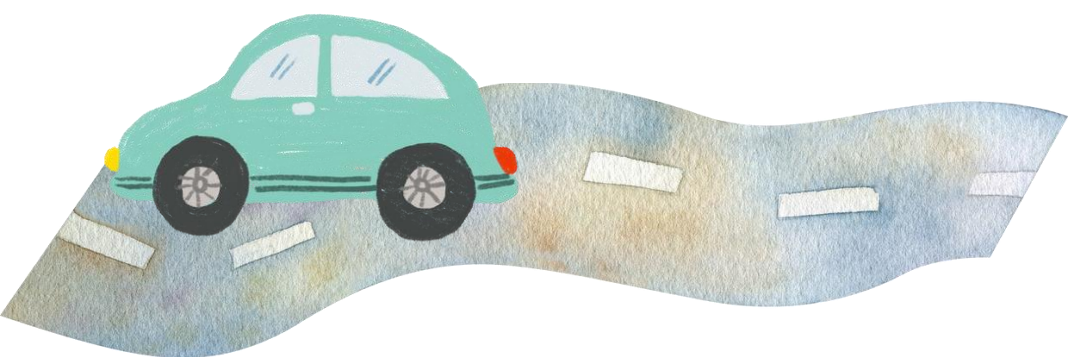
ケアマネジメント



持っているものを引き出す



持っていない情報は補う

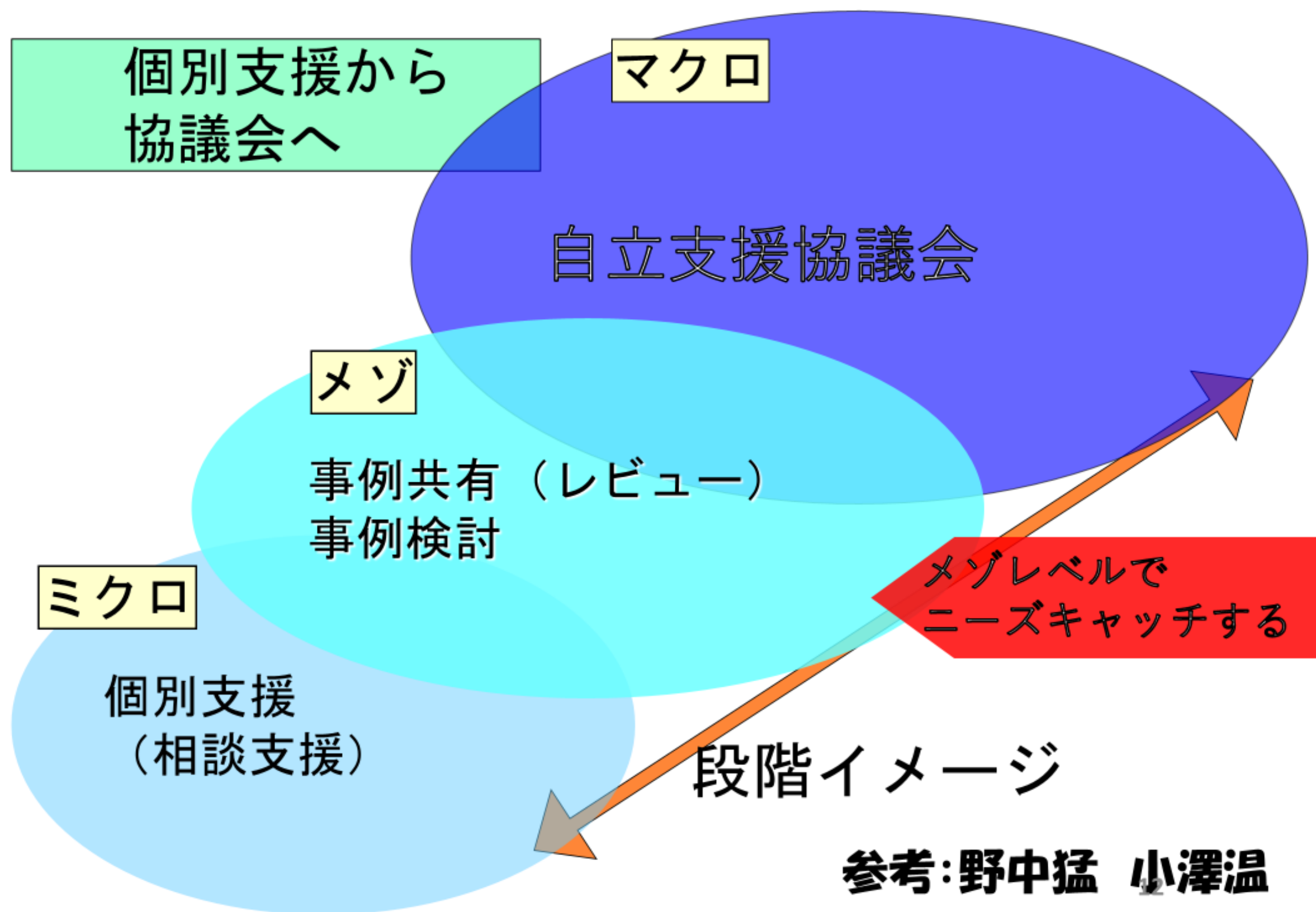


私たちはソーシャルワークの実践者

- ソーシャルワークは、社会福祉活動全般を指す。
対人援助を通して、環境への様々な働き掛けを行い、
利用者の社会生活を充実させていく社会福祉援助技術である。
- ソーシャルワーク専門職のグローバル定義には、
「社会変革と社会開発、社会的結束、および
人々のエンパワメントと解放を促進する」
とある。

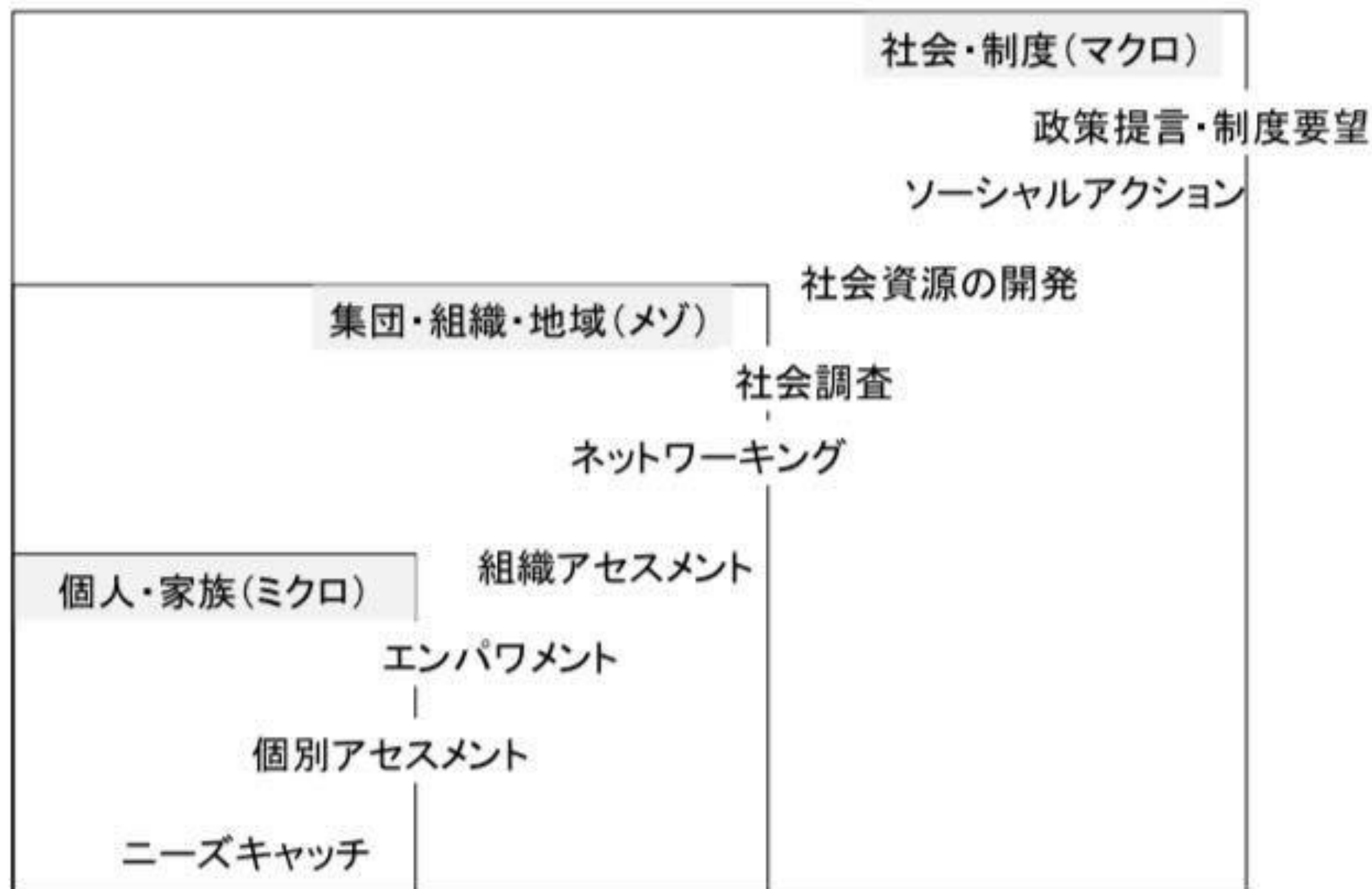
～ソーシャルワーク実践は、目の前の利用者のみならず、社会が良くなること～





ソーシャルワークの介入領域と 援助技術の例

標準カリキュラム



（事例） 利用者Aさん（40代・知的障害・男性）は、地域のグループホームに入居中。日中は就労B型支援事業所に通っています。最近、仕事に行きたがらない日が増え、GHでの他利用者とのトラブルも増えている。生活支援員の話によると「最近イライラしているようで、話しかけても反応が薄い」とのこと

□1. ミクロ（本人への直接支援）

- ・本人に今、どんなことが起きている？どんな関わりができそう？

□2. メゾ（周囲との関係）

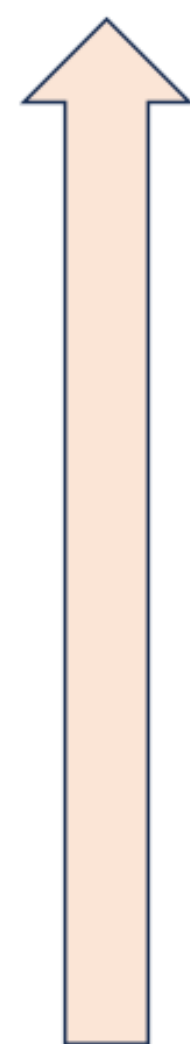
- ・誰と連携する？どんな調整・話し合いが必要？

□3. マクロ（制度・社会）

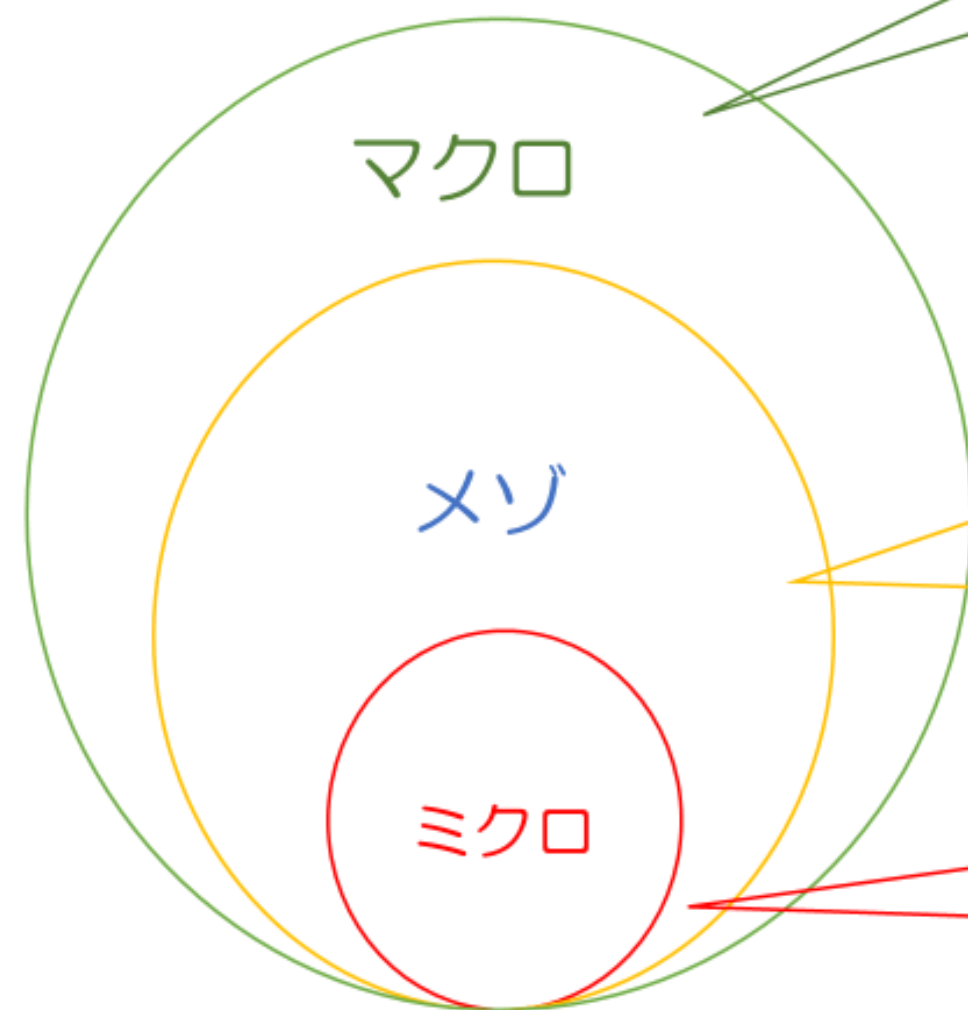
- ・制度や地域の課題は？社会的にどんな改善が必要か？

実践（皆さんがかかわっていること）

地域を変える



個別のかかわり



地域開発、地域福祉計画、政策立案、
社会資源開発、政策や制度に関する会議

調整力、交渉力、ネットワーキング技法、
ケアマネジメント、カンファレンス技法、
アドボカシー技法、社会調査、
スーパービジョン、コンサルテーション

コミュニケーション技法、面接技法、
説明力、交渉力、グループワーク、記録

ケアマネジメントとは・・・



- ・ 1960年代のアメリカにおいて、**脱施設化**がすすみ、精神科病院で暮らし始める精神障害を支える方法として誕生
- ・ 保険会社や障害年金等のマネージャーと病院やリハビリテーション機関に勤務するケースマネージャーとの**協議にもとづいてサービスが決定されるシステム**だった
- ・ 日本では1980年代後半に、導入される。

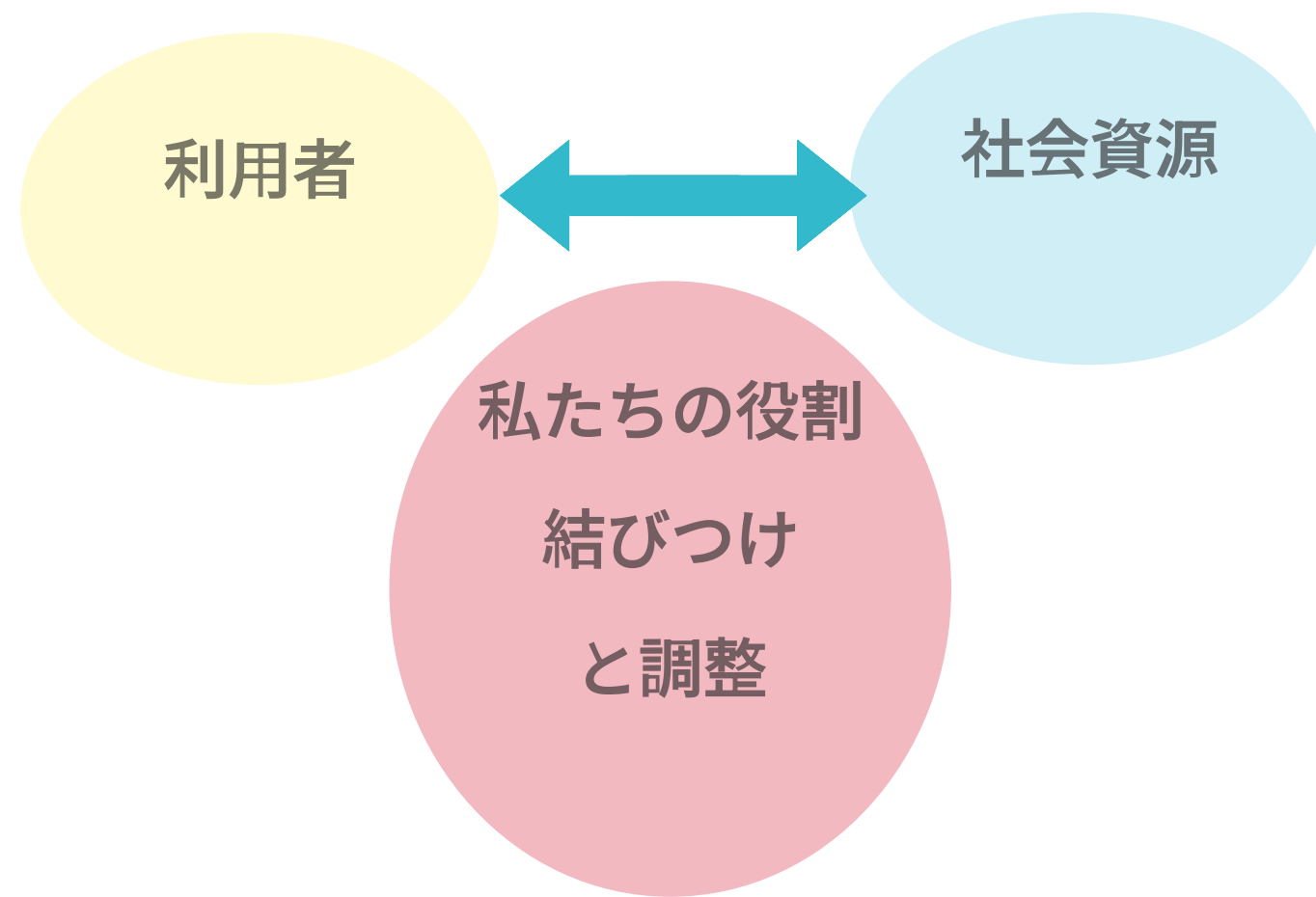
1980年代における、高齢者福祉の状況があったとされている。当時の日本では、家族形態が核家族化し、家族による介護が困難になりはじめ介護ニーズが社会的に増大し、新たな介護システムの模索が課題となっていたことにある

→2000年には**介護保険制度**・ケアマネジメントの急激な広まり

→2006年には**障害者自立支援法**上で、相談支援事業として導入



ケアマネジメントの構成



利用者・社会資源の間に
社会福祉士や
精神保健福祉士 等
ソーシャルワークの視点
を持つものと数名で
関わると良い

・フォーマルサービス

→介護保険・障害者福祉制度・医療保険
等

メリット：サポートの継続性、責任の明確さ
デメリット：柔軟性に乏しい（画一的）

・インフォーマルサービス

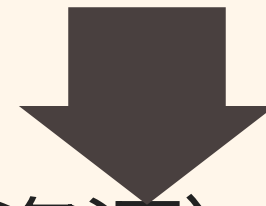
→家族・ボランティア等

メリット：サポート内容・方法の柔軟性や
多様性

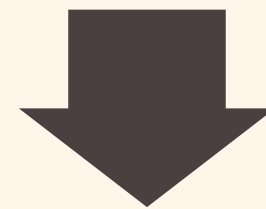
デメリット：サポートの継続性・責任所在の
不明確さ

ソーシャルワークは、
ケアマネジメントにより強化される！

≠使い方を間違うと、ケアマネジメントがソーシャルワークを破綻させる



あるもの（資源）で我慢を強いる



ソーシャルワークの大切な視点である、**その人らしさ**への対応を殺し
変化の必要性・**代替**、**開発**、**改革**を放棄させてしまう。

～ 自覚者は責任者～

相談援助技術とは「その人らしく生きる」という物語に寄り添うこと。

ソーシャルワークとは、その物語に耳を澄ませ、共に編み直していくこと。

私たちが真摯に関わることで、誰かの世界が、社会が変わってくと思っています。

